

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

令和 5年 4月 1日

(株)加島建設 生コンクリート工場

広島県庄原市高野町新市418番地
TEL (0824) 86-2228・2152
配合計画者名 _____

工 事 名 称													
所 在 地													
納 入 予 定 時 期		令和5年4月1日～令和6年3月31日											
本配合の適用期間 a)		(標準配合)											
コンクリートの打込み箇所													
配 合 の 設 計 条 件													
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号								
	普通	27	12	20	BB								
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載								
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法 b)	BB								
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	--- kg/m ³								
	水の区分	使用材料欄に記載		コンクリートの温度	--- °C								
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		水セメント比の目標値の上限	55 %								
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の上限	--- kg/m ³								
	呼び強度を保証する材齢	---		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	--- kg/m ³								
	空気量	---		流動化後のスランプ増大量	--- cm								
使 用 材 料 c)													
セメント	生産者名	株式会社トクヤマ			密度 g/cm ³	3.04	Na ₂ Oeq % d)						
混和材①	製品名	---	種類	---	密度 g/cm ³	---	Na ₂ Oeq % e)	---					
混和材②	---	---	---	---	---	---	---	---					
骨材	No.	種類	産地 又は 品名	アルカリ反応性による区分 f)	粒の大きさの範囲 g)	粗粒率又は実積率 h)	密度 g/cm ³ 絶乾	微粒分量の範囲 % i)	表乾				
				区分					試験方法	表乾			
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	モルタルパー法	5以下	2.60	---	2.57	3.0以下			
骨材	②	砕砂	広島県三次市布野町下布野	A	化学法	5以下	2.70	---	2.64	3.0±2.0			
材	③	---	---	-	---	---	---	---	---	---			
粗骨材	①	碎石1505	広島県三次市布野町下布野	A	化学法	15~05	6.30	---	2.72	1.0±1.0			
	②	碎石2010	広島県三次市布野町下布野	A	化学法	20~10	7.00	---	2.72	1.0±1.0			
材	④	---	---	-	---	---	---	---	---	---			
混和剤①	ポリヒード15L		AE減水剤 (標準形 I 種)					Na ₂ Oeq % j)	0.02				
混和剤②	製品名	---	種類	---				---	---				
混和剤③	---	---	---	---				---	---				
細骨材の塩化物量 k)		①0.00% --- ②---% --- ③---% ---	水の区分 l)		回収水 (上澄水)	目標スラッジ固形分率 m)		---					
回収骨材の使用法 n)		細骨材	---	粗骨材	---	安定化スラッジ水の使用の有・無							
配 合 表 o) kg/m ³													
セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材			混和剤 p)			
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
335	---	---	174	396	397	---	299	697	---	---	2.747	---	---
水セメント比 q)		52 %		水結合材比 q)		---			細骨材率		45.4 %		
備考 骨材の質量割合(割合)、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。				骨材混合比 (質量混合)		細骨材①:②		50.0:50.0					
						粗骨材①:②		30.0:70.0					

注) 本配合の適用期間に加え、標準配合、又は修正標準配合の別を記入する。
 a) 配合で想定した温度より大幅に相違する場合、運搬時間が標準状態から大幅に変化する場合は、骨材の品質が所定の範囲を超えて変動する場合は修正を行ったものとする。
 b) 配合設計に用いた材料について記入する。
 c) 配合設計に用いた材料について記入する。
 d) 配合設計に用いた材料について記入する。
 e) 配合設計に用いた材料について記入する。
 f) アルカリシリカ反応性による区分、及び判定に用いた試験方法を記入する。
 g) アルカリシリカ反応性による区分、及び判定に用いた試験方法を記入する。
 h) 粗骨材に対しては、絶対乾燥率の値を記入する。細骨材に対しては、含水率、含水率及びスラッジ水分率を記入する。
 i) 粗骨材に対しては、絶対乾燥率の値を記入する。細骨材に対しては、含水率、含水率及びスラッジ水分率を記入する。
 j) 粗骨材に対しては、絶対乾燥率の値を記入する。細骨材に対しては、含水率、含水率及びスラッジ水分率を記入する。
 k) 粗骨材に対しては、絶対乾燥率の値を記入する。細骨材に対しては、含水率、含水率及びスラッジ水分率を記入する。
 l) 回収水の量は、回収水(スラッジ水)と記入する。
 m) スラッジ水を使用する場合は、回収水(スラッジ水)と記入する。目標スラッジ固形分率とは、3%以下のスラッジ固形分率の程度を確保できるように定めた値である。また、スラッジ固形分率を1%未満で使用する場合に、「1%未満」と記入する。
 n) 回収水の使用法は、細骨材に対しては、含水率又は絶対乾燥率の値を記入する。粗骨材に対しては、「目方法」と記入する。
 o) 人工乾燥骨材の場合は、絶対乾燥率の値を、その他の骨材の場合は、表面乾燥率(含水率)の値を記入する。
 p) 空気量を記入する場合は、空気量を記入する。高炉スラグ微粉、フライアッシュ、シリカフューム又は膨張材を骨材として使用した場合は、水結合材比だけ記入するか、又は水結合材比及び水セメント比の両方を記入する。
 q) コンクリート中のアルカリ総量を規制する抑制対策の方法を詳しく記入する。
 r) 購入量から過剰を受けたアルカリ量を記入する。
 s) 付着モルタルのラバー化に使用した場合の全アルカリ量は、F.6.2.によって求めた値を、安定化スラッジ水の非釈に用いた場合の全アルカリ量は、G.8.2.によって求めた値を記入する。

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 27	スラブ又はスラブフォーム cm 12	粗骨材の最大寸法 mm 20	セメントの種類による記号 BB
-----	----------------------	------------	--------------------------	----------------------	--------------------

指定事項 W/C ≤ 55%

(1) 変動係数 (v) 当工場の実績により v = 10 %

(2) 配合強度 (m)

$$m_1 = \frac{1 \cdot S_L}{1 - \frac{2 \cdot v}{100}} = 33.8 \text{ N/mm}^2$$
 よって m = 33.8 N/mm²

(3) 水セメント比 (W/C) $m = -17.5 + 26.9 \times C/W$
 $W/C = 26.9 \div (33.8 + 17.5) \times 100 = 52 \% \leq \text{【55\% (上限値)】}$
 $\therefore W/C = 52 \%$

(4) 単位水量 (W) 当工場の実績により W = 174 kg/m³

(5) 単位セメント量 (C) $C = W \div (W/C) \times 100 = 174 \div 52 \times 100 = 335 \text{ kg/m}^3$
 $C_v = C \div \text{密度} = 335 \div 3.04 = 110 \text{ L/m}^3$

(6) 空気量 (A) $A = 4.5 \% \times 1000 = 45 \text{ L/m}^3$

(7) 細骨材率 (s/a) 当工場の実績により s/a = 45.4 %

(8) 単位細骨材量 (S) $S_v = (1000 - (W + C_v + A)) \times s/a = 671 \times 45.4 \% = 305 \text{ L/m}^3$
 $S = S_v \times \text{表乾密度} = 305 \times 2.60 = 793 \text{ kg/m}^3$
 $S_1 = S \times 50.0 \% = 396 \text{ kg/m}^3$
 $S_2 = S \times 50.0 \% = 397 \text{ kg/m}^3$

(9) 単位粗骨材量 (G) $G_v = 1000 - (W + C_v + S_v + A) = 1000 - 634 = 366 \text{ L/m}^3$
 $G = G_v \times \text{表乾密度} = 366 \times 2.72 = 996 \text{ kg/m}^3$
 $G_1 = G \times 30.0 \% = 299 \text{ kg/m}^3$
 $G_2 = G \times 70.0 \% = 697 \text{ kg/m}^3$

(10) 単位混和剤量 (Ad) $Ad = C \times \text{添加率} = 335 \times 0.8200 \% = 2.747 \text{ kg/m}^3$

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
335	---	---	174	396	397	---	299	697	---	---	2.747	---	---
水セメント比	52 %		細骨材率	45.4 %			骨材混合比 (質量混合)		細骨材①:② 粗骨材①:②		50.0:50.0 30.0:70.0		

備考